JR東労組 本部ＯＢ会 ニュース

東日本旅客鉄道労働組合
東京都渋谷区代々木２丁目２番６号
ＪＲ新宿ビル13Ｆ〒151-8512
Tel. 03－3375-5740（代）
発行責任者古 川 建 三

No.224　　2016 年　1 月発行

ＯＢ家族 75 名、沖縄県民と共に

辺野古で怒りのシュプレヒコール

「辺野古の新基地建設ハンタ～イ」、「沖縄県民と共に闘うぞ」・・・。11月30日夕暮れにはまだ早い16時、沖縄県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの金網越しに、新基地建設に反対する沖縄県民と連帯するＪＲ東労組ＯＢ会の会員や、家族の怒りに満ちた力強いシュプレヒコールが響き渡りました。

今回沖縄の辺野古を訪れたのは、沖縄県民の民意を無視し続け、基地建設を強行している安倍政権に対し、連日早朝より米軍キャンプ・シュワブゲート前で抗議の座り込み行動を続けている沖縄県民に連帯するために、ＪＲ東労組の12地本ＯＢ会から参加した75名（12名の家族を含む）の代表団です。

２泊３日の「沖縄と連帯する旅」は、この日の辺野古での抗議行動を含め、二日目以降も予定通り進められ、大成功の内に終えました。

県退職者連合のお世話で

「沖縄と連帯する旅」の初日は、早朝9時に羽田空港を発ち、那覇空港では沖縄県退職者連合の三役と「美世志会」の梁次さんの出迎えを受けました。

直ちに2台の貸切バスに乗り、名護市辺野古に向かいました。車中では、退職者連合の会長さんと副会長さんから「沖縄の歴史」と「基地建設を巡る現情況」について話をしてもらいました。

辺野古では、まず海上工事が進む大浦湾を見た後、米軍キャンプ・シュワブ基地ゲート前で抗議の座り込みを行っているテント村に行き、約2時間沖縄県民と共に座り込みやデモ行進をしました。

その後、16時頃に「沖縄と連帯する旅」に参加した75名で、米軍基地に向って日米の両政府に「怒りのシュプレヒコール」を行いました。

新春クイズ

安倍政権は、昨年「戦争法」を成立させ、今夏の参院選で「憲法改正」の足固めをしようとしています。こんな政治は絶対に許してはなりません。

《 問 題 》

いのちと人権を大切にする政治を取り戻すために、夏の〇〇〇議員選挙に勝利しよう。

〔応募要領〕
〇の中に適当な文字を入れて下さい。
★ヒントは、「ＯＢ会ニュース」をよく読んで、答えを見つけて下さい。
★ハガキに答えと住所・氏名・ＯＢ会員番号を書いてご応募ください。

♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ

＜宛て先＞〒１５１－８５１２
東京都渋谷区代々木２－２－６
ＪＲ新宿ビル 13ＦＪＲ東労組ＯＢ会

♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ

＜賞品＞　正解者の中から抽選で 33 名の皆さんに下記の賞品が当たります。

- １等　3名　　１万円のびゅう商品券
- ２等５名　　５千円のびゅう商品券
- ３等 10 名　３千円のびゅう商品券
- 特別賞 15 名 1,000 円の図書券

♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ♥･ﾟ

＜応募締切＞**2016 年 1 月 25 日（消印有効）**

＜当選発表＞**次号No.225 号（2 月号）**

沖縄県営平和祈念公園の「平和の火」の前で

思わず涙が・・・

二日目は好天に恵まれ、第２次世界大戦で悲惨な地上戦が繰り広げられた沖縄の戦跡巡りを行いました。

まず向かったのが、ひめゆり平和祈念資料館。そこでひめゆりの塔に献花した後、館内で、かっての沖縄陸軍病院で看護の任務にあたった元ひめゆり学徒隊の方から、当時の体験談を聞きました。

また館内に展示してある沖縄戦で亡くなった女学生達の顔写真の前で、そ～っと涙を拭く参加者の家族の姿もありました・・・。

旅の一行はその足で、約３万人の沖縄県民の遺骨が眠る「魂魄の塔」を訪れました。ここでも献花をした後、梁次さんの説明に耳を傾けました。

その後沖縄戦の激戦地となった摩文仁の丘にある県営平和祈念公園を訪れました。

昼食は、琉球ガラス村でとりました。

雨に煙る首里城

旅の３日目は生憎の雨でしたが、予定通り首里城を見学しました。

午後には雨も止み、国際通りで食事をとり、16時50分に羽田空港に戻り、沖縄県民との連帯と戦跡巡りの旅は無事終了しました。

参加者の感想

（仙台・家族）
初めて飛行機に乗りドキドキしました。現地に行って初めて沖縄の現実を実感しました。梁次さんの話に感銘しました。

（千葉・ＯＢ）
座り込みをしている高齢者の多さには、ビックリした。こんな機会でもない限り、沖縄に来られなかった。聞くと見るとでは大違い。これからもがんばります。

（大宮・ＯＢ）
久しぶりのシュプレヒコールに燃えた。梁次さんが沖縄に移り住んだので、今まで以上に基地建設反対の声を出そうと決意しました。

（新潟・家族）
辺野古新基地建設反対の取り組みに一般の市民、特に多くの女性の姿を見て感動しました。周りの人達に沖縄の本当の姿を伝えます。

わが町の有名人

大宮地本ＯＢ会

大宮地本ＯＢ会が今回紹介する有名人は、大和田孝一さんです。

大和田さんは、国鉄に就職してからＪＲを退職するまで、一貫して駅職場に従事していました。その間駅の分会役員を務め、退職間際には宇都宮線駅連合分会の分会長に就任し、若手の育成や政策フォーラムを取り組み、営業職場の労働環境の改善のために活動をしてきました。

地域に貢献して

大和田さんは現在茨城県桜川市に住んでおり、田畑に囲まれた自然豊かな環境の中でのどかに生活しています。

腰を痛めて60才で退職しましたが、地元ではその人望を買われ、様々な役員に推挙されています。

今は自治会長や青少年育成の会長として、特に青少年育成のために県や市役所を駆け回っています。

その一方で農業に従事する者として、ＪＡ改革やＴＰＰには危機感をもっており、たしろ参議院議員の活動に期待感を持っています。そうした点からも、大宮地本ＯＢ会員として宇都宮線駅連合のＯＢ会の仲間に働きかけ、たしろ議員を応援する取り組みを進めています。

現在61才。腰痛と向き合いながら農業を営む一方、地域に貢献する活動やＯＢ会活動に精を出す元気者です。

（桜川市在住・大和田孝一・61歳）

エルダー組合員と本部役員との意見交換会

12月15日ＪＲ東労組本部大会議室で、「エルダー組合員と本部役員との意見交換会」が開催されました。交換会には、各地本エルダー組合員と担当役員、本部からは奥山副委員長、徳野組織部長、森担当部長と本部ＯＢ会役員の総勢45名が参加しました。

主催者の挨拶に立った奥山副委員長からは、本部で取り組んだ各職種別政策フォーラムの成果が報告されると共に、この政策をたしろ議員の政策としていくことが報告されました。

また、本部ＯＢ会の古川会長からは、昨年ＯＢ会が取り組んだ福島行動と「沖縄と連帯する旅」が報告された後、エルダーの課題解決に向けたＯＢ会の考えが提起されました。

討論では、エルダーの皆さんと各地本の取り組みの現状が報告され、エルダー制度は誰が造ってきたのかの基本に関わる議論もあり、従来にない熱い議論が交わされました。

会議の最後にたしろＤＶＤを観賞後、徳野部長のまとめを全体で確認し、意見交換会を終えました。

「松崎さんを偲ぶ集い」を開催

12 月 5 日、大宮地本OB会は大宮総合車両センターで「松崎さんを偲ぶ集い」を 140 名の参加者で開催しました。「松崎　明」さんが鬼籍に入って５年、この間「松崎さんを偲び、OB会員の絆を強化する集い」と銘打って4回開催してきました。

今年の集会は「松崎さんの理想と実践を継承し、一切の組織破壊・妨害を許さず、OB会員と現役組合員の絆を強化する集い」という集会名で開催しました。

オープニングで「心優しき鬼の生涯」のビデオを上映した後、橋詰実行委員長と来賓から挨拶をいただき、大宮地本から「現役からの報告」を受けました。OBは、退職後は傍観者になりがちですが、現役組合員の苦闘を共有し、連帯することの必要性を感じました。

美世志会の「梁次邦夫」さんからも講演をいただき、松崎さんの幅広い活動と教訓を学ぶ事が出来ました。

また、お忙しい中「たしろかおる」参議院議員も駆けつけ、現情勢と国会活動の報告をしていただきました。

宇都宮・宮総・大宮・浦和支部と青年部の決意表明には、松崎さんの理論と実践を継承し、東労組を強化発展させる情熱が溢れていました。

今後も、OBと現役の闘う団結力で、奮闘する「たしろかおる」参議員の活動を一層支援していきます。　　（大宮地本OB会）